

13. 日本における下位文化理論の検証

●フィッシャーの下位文化理論は、都市における親族、隣人関係の減少と友人関係の増加を予測。

●日本における検証。1990年代から、ネットワーク調査による検証→結果はまちまち。

大谷（1995）：中国・四国地方の5都市（広島、岡山、松山、宇和島、西条）の調査。

→親族、隣人は減少、友人は増加。

松本（1992）：名古屋市熱田区と春日井市高蔵寺NTの2つの団地の比較調査。

→東海3県出身者のみ、親族・隣人減少、中距離友人増加。

立山（1998）：全国家庭動向調査のデータ分析（有配偶女性のみ）。

→親族減少、隣人逆J字型、友人減少。

●経験的検証の争点

親族関係：都市度によって減少するのか？ 居住移動の影響は？

地元都市圏出身者のみ減少。遠距離移動者は都市度と関係がない。

隣人関係：都市度によって減少するのか？ 居住移動の影響は？

友人関係：都市度によって増加するのか？ 居住移動の影響は？

都市度は、中距離友人数のみ増加させる。

遠距離友人数は、都市度と関係なく、遠距離移動の影響があるのみ。

●「構造化モデル」（松本 2002, 2005a,b, 2006）

→行為者は、一定の機会と制約のもとで、行為を選択することをとおして、社会的諸関係を選択的に再生産している。

→社会的諸関係は、履歴上、特定の場所で蓄積されている関係資源をもとに、機会と制約に応じて、選択的に再生産される。

→居住移動は、行為者にとって、生態学的機会・制約の構造を変化させる（構造化モデル）。

選択-制約モデルは、履歴効果を考慮していない。

●松本（2004）の調査結果

名古屋都市圏から5市区を選択（名古屋市北区、昭和区、日進市、多治見市、瑞浪市）。

各地点、600人、計3000人に調査票を郵送。1284人から回答を得る。

都市度は、瑞浪市<多治見市<日進市<昭和区=北区

1) 親族関係（親しくしている家族・親戚の数）

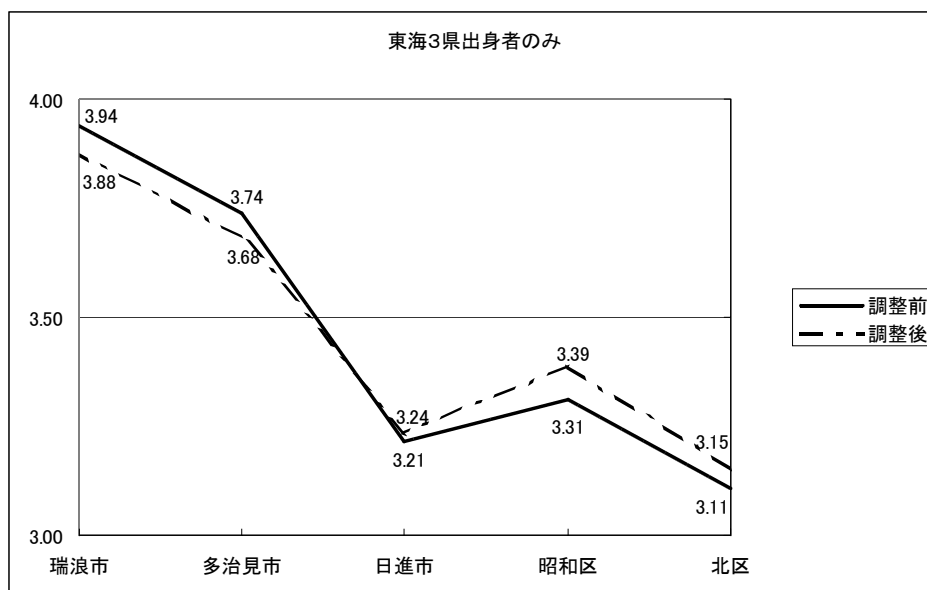
・親族数は、都市度が增大するにつれて減少。（→東海3県出身者のみ）。

・東海3県出身者の30分以内の親族数（地域親族）が減少していた。

→地域親族集団の衰退、小規模な親族ネットワークへ。

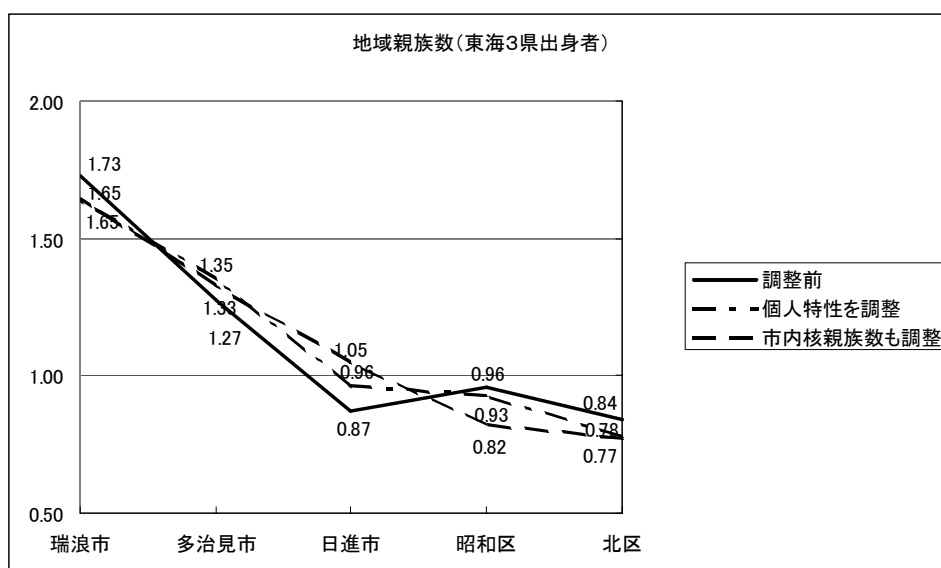
・東海3県以外の出身者は、2時間以上の親族数が多い。→出身地に親族が多い。

図 13.1 居住地別の親族数（東海3県出身者）



婚姻状態、学歴、核親族数を調整。

図 13.2 居住地別の地域親族数（東海3県出身者）



個人特性は、市内居住年数**、婚姻状態*、学歴を調整。

2) 隣人関係（親しくしている隣人の数）

・隣人数は、都市度が増大するにつれて減少。

東海3県出身の男性では明瞭に減少、東海3県出身の女性と東海3県以外の男性ではわずかに減少、東海3県以外出身の女性では、都市度との関連がない。

男性の近隣集団から女性中心の近隣ネットワークへ《縮小》傾向。

図 13.3 居住地別の親しい隣人数（男女別）

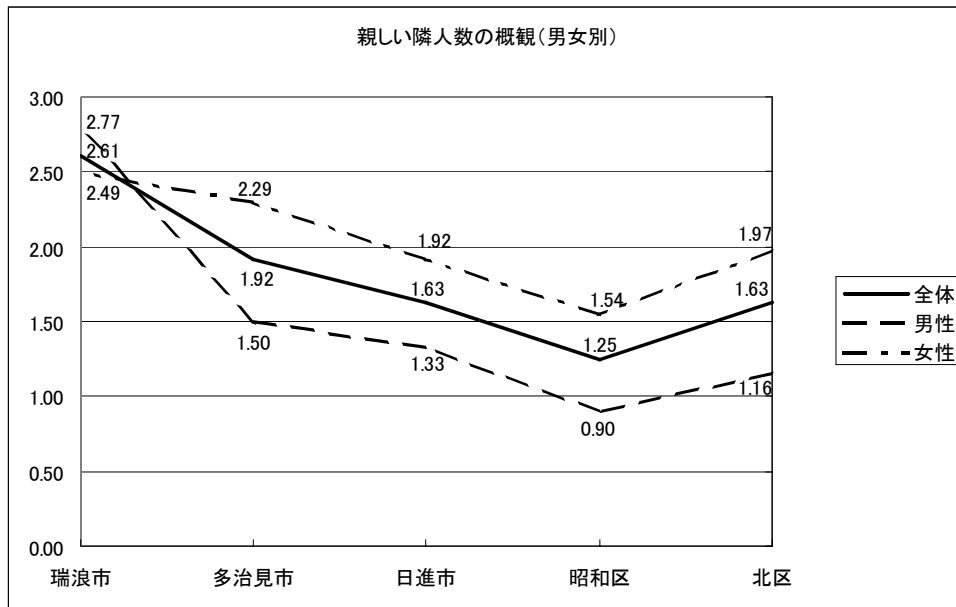
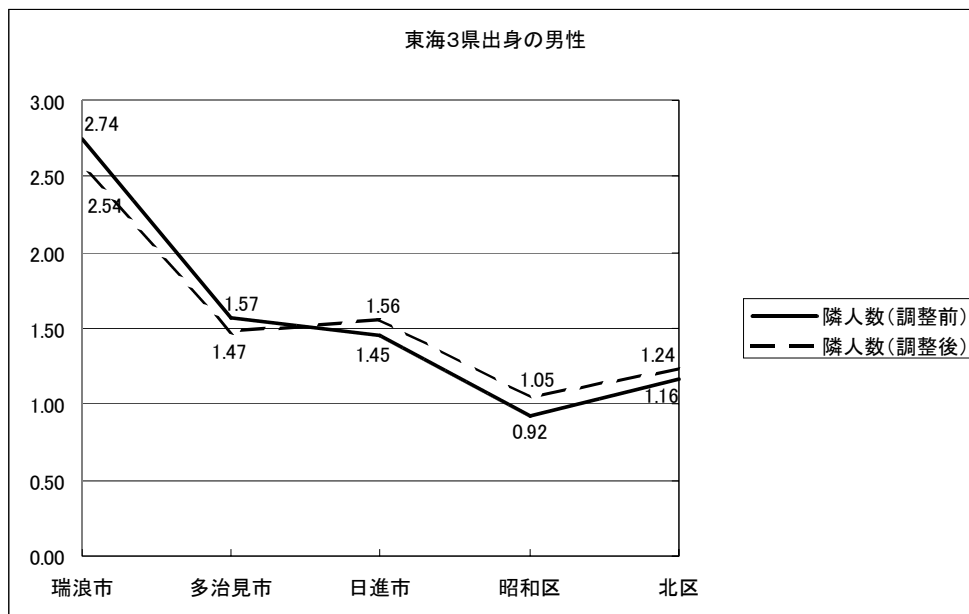
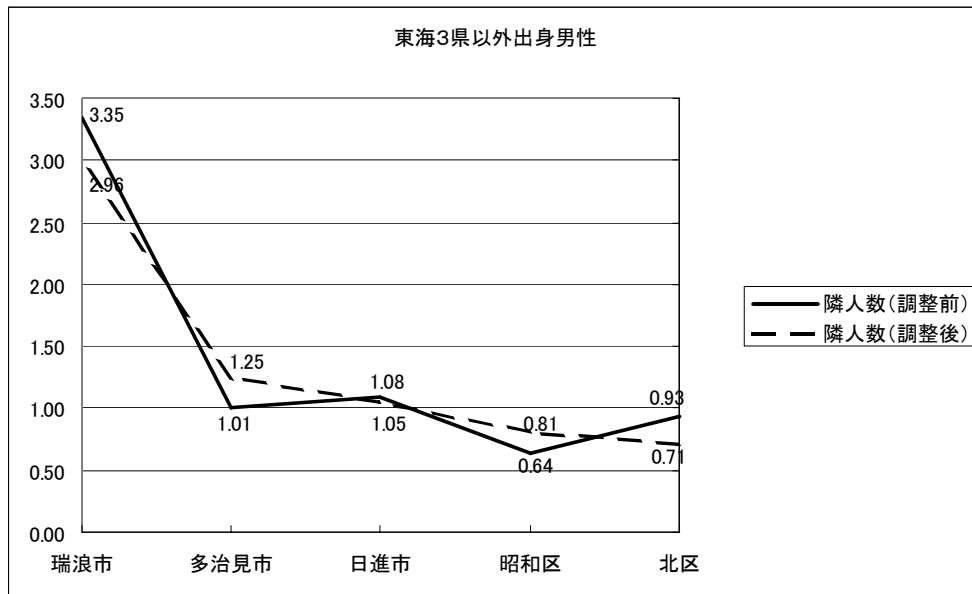


図 13.4 居住地別の親しい隣人数（東海3県出身男性）



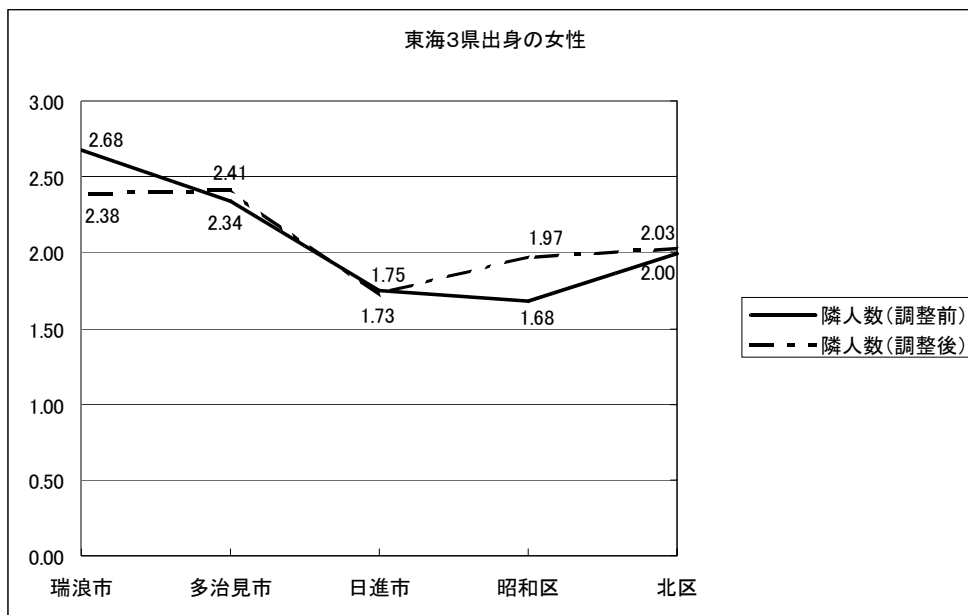
年齢、婚姻状態、学歴*、居住年数を調整。

図 13.5 居住地別の親しい隣人数（東海3県以外男性）



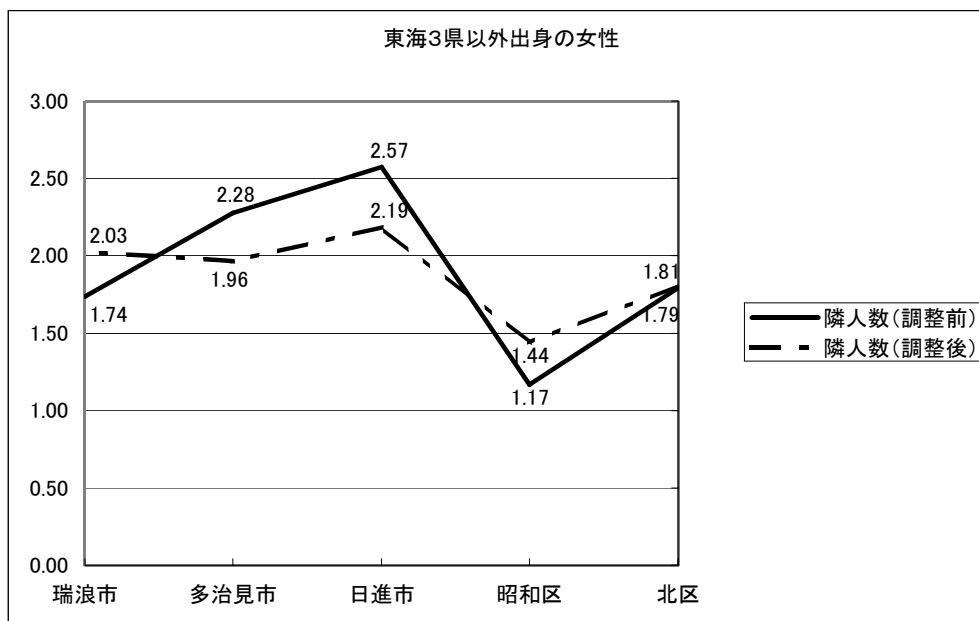
婚姻状態、学歴を調整。

図 13.6 居住地別の親しい隣人数（東海3県出身女性）



家族周期段階**、学歴*、社会経済的地位、居住年数**を調整。

図 13.7 居住地別の親しい隣人数（東海3県以外出身女性）

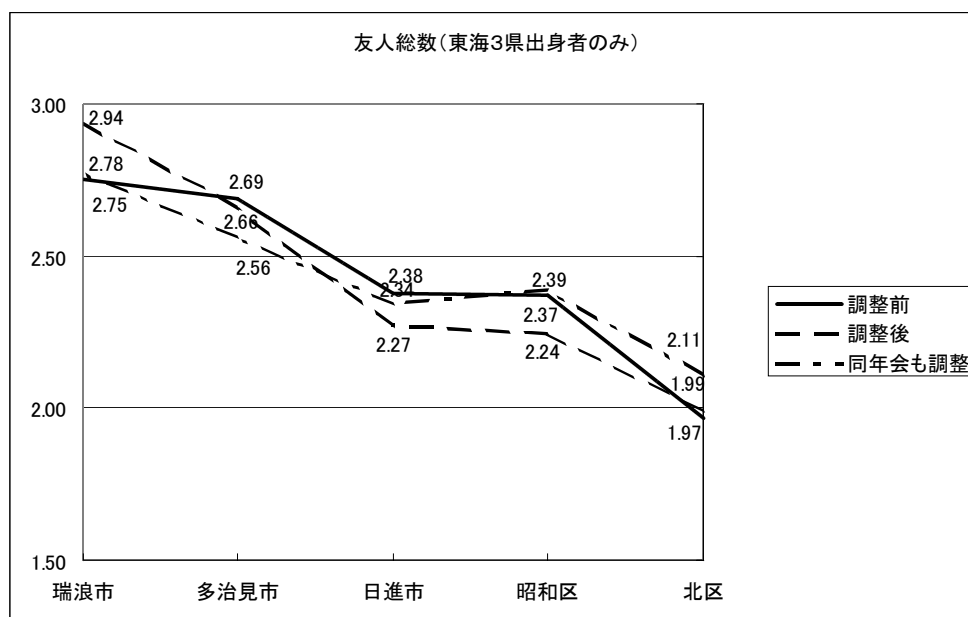


家族周期段階を調整。

3) 友人関係（親しくしている友人の数）

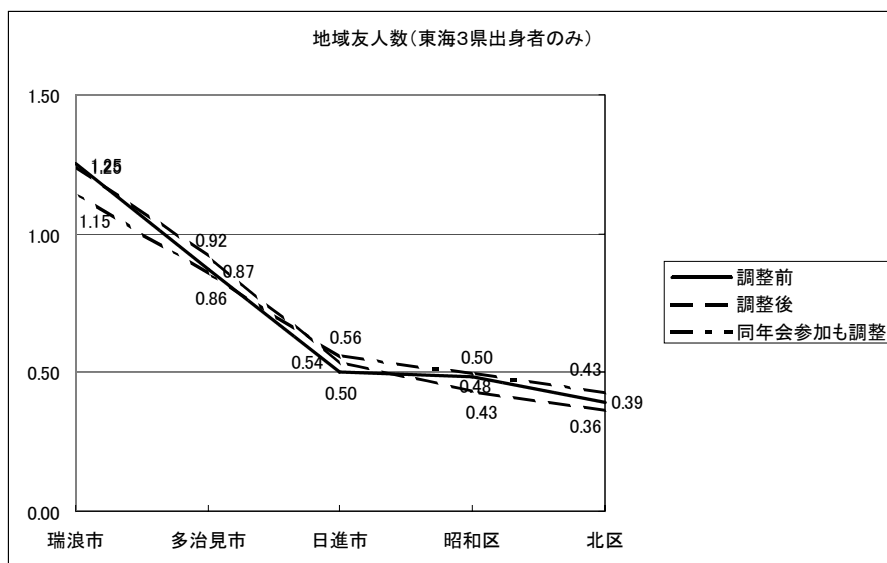
- ・友人数は、都市度が増大するにつれて減少。（主として東海3県出身者）。
- ・東海3県出身者の30分以内の友人数（地域友人数）が減少。→地元仲間集団の衰退。
- ・東海3県出身者の30分～2時間以内の友人数（中距離友人数）は増加。→大都市部では、広域にわたる友人ネットワークが形成されている。

図 13.8 親しい友人数（東海3県出身者）



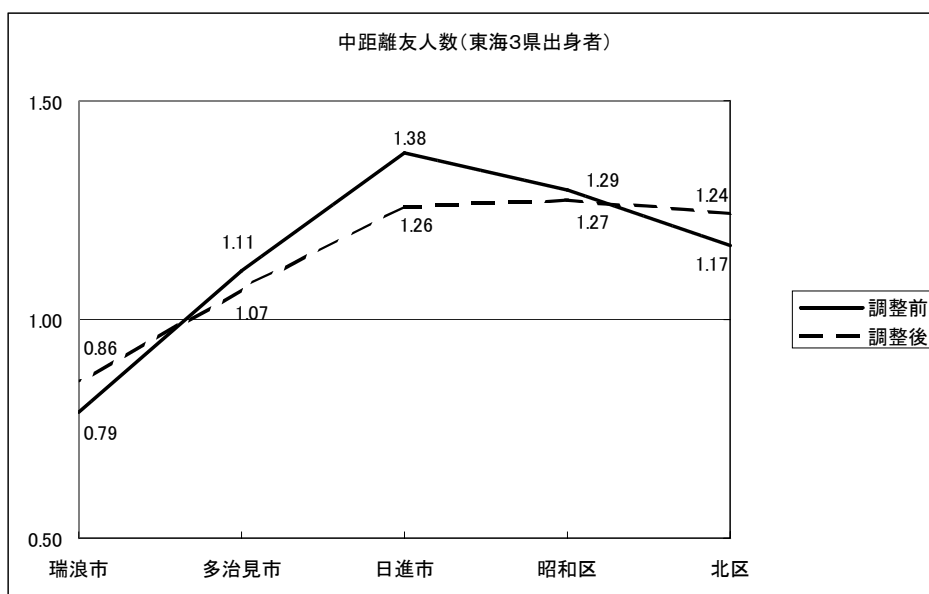
年齢**、婚姻状態、学歴**を調整。

図 13.9 親しい地域友人数（東海3県出身者）



年齢**、婚姻状態、学歴**を調整。

図 13.10 親しい中距離友人数（東海3県出身者）



市内居住年数*、婚姻状態*、学歴を調整。

・ 遠距離友人数（2時間以上）は、東海3県以外の出身者に多く、市内通算居住年数が短い人に多く、高学歴の人に多い。→移動履歴の影響が強い。

・ 友人関係は、機会・制約のもとで、そのつど選択されるのではなく、それまでの生活のなかで蓄積した「友人候補者リスト」のなかから、選択される。都市度の効果は、友人資源を地元都市圏に蓄積している人だけに表れる。

- ・関係の選択は、既存のネットワークを前提に、一定の機会と制約のもとで、選択的に再生産される。(ネットワークの構造化モデル)。
- ・都市化の初期段階では、流入者が多く、都市内部では、ネットワークは希薄。
都市住民の定住と世代的再生産によって、都市圏内にネットワークが形成される。